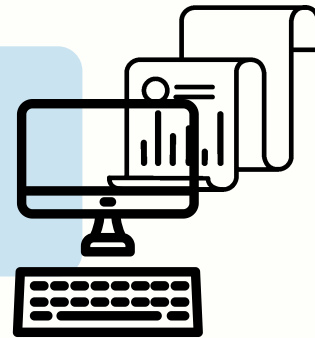


# 受発注システム BlueTail



## 販売管理システム

すべての処理をデータで串刺したいかのような一元管理システム



### 概要

見積、受注、発注から入在庫管理、在庫管理、売上管理、入金管理、経営分析まで業務で必要な処理を1つのデータベースで一元管理しています。

システム入れ替え前の勘定奉行やExcelのデータは移行計画を作り、並行運転ののちスムーズに導入。

DXを意識した統合データベースシステム（BlueTail）は、今も改良を続け躍動しています。



### システム導入のいきさつ ～導入先企業社長のお話より～

15年使っていた某管理ソフト。有償でカスタマイズした費用は、合計2000万を超えていた。

そのソフトがクラウド化する。しかし、カスタマイズした部分は踏襲されることはない。それを知らされた時は愕然とした。なんのためにカスタマイズに多額の費用をかけたのか！？

元々、そのソフトには、不満点もあった。在庫管理や生産管理がないこと。また会計システム等の連携がされてなかったりと事務処理での2重入力が常態化していた。

営業担当は、商品の在庫や納期を知ることにも一苦労、生産部門に連絡すると材料しだいとの回答。発注担当に材料一つ一つについて確認が必要で、納期回答に半日以上かかることもまれではなかった。

そんな状況で、統合データベース構想が生まれる。

各部門の担当者にインタビューやレビュー会を何度も重ね1年がかりで、新システムを作り上げた。



### システム化導入の効果

データ一元化の威力を最大限に発揮

- ・営業は外出先からも**すぐに納期回答**が可能に。
- ・**売上と在庫が連動**しているので適切なタイミングで発注ができ、**在庫不足、材料欠品がなくなる**。
- ・15人×2日かかっていた在庫の棚卸が作業が、**たったの2人で1日**で終了！
- ・見積登録時に入力した内容から、**作業指示書も自動**で出来上がるため、手書きの指示伝票が不要に。
- ・請求・入金管理は顧客ごとの支払い方法の違いを考慮。そのまま**会計システムに連携**。
- ・月ごと、担当者ごと、商品カテゴリごとなど**リアルタイム**な数値での**経営分析**が可能に。

### 導入企業

バブルメーカー

年商：17億円

所在地：大阪府吹田市

## 実際の画面です

各部署に必要なメニューが並んでいます。

必要な処理が自動でリスト化されるため、各担当はシステムを確認し漏れなく、効率的に業務が行えます。



**受発注システム BlueTail**

| 販売  | 仕入   | 生産・出荷   | 在庫   | 管理   |
|---|--|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>▶ 見積</li><li>▶ 承認処理（見積）</li><li>▶ 受注処理</li><li>▶ 売上処理</li><li>▶ 得意先元帳照合用</li><li>▶ 請求処理</li><li>▶ 回収処理</li><li>▶ 得意先元帳</li><li>▶ 売掛金残高一覧表</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>▶ 購買情報照会</li><li>▶ 発注処理</li><li>▶ 承認処理（発注）</li><li>▶ 受入検査</li><li>▶ 入庫処理</li><li>▶ 仕入処理</li><li>▶ 仕入先元帳照合用</li><li>▶ 支払処理</li><li>▶ 仕入先元帳</li><li>▶ 買掛金残高一覧表</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>▶ 生産処理</li><li>▶ 出荷処理</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>▶ 在庫照会</li><li>▶ 商品受払帳</li><li>▶ 在庫調整・移動・再検査</li><li>▶ 在庫残高</li><li>▶ 棚卸処理</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>▶ マスターメンテ</li><li>▶ ピボットテーブル</li><li>▶ 進捗管理エントリー</li><li>▶ ログアウト</li></ul> |

## その他の特徴的な機能

- ・アンドロイド端末でのラベル印刷
- ・ファイルサーバのパスを管理した設計書、仕様書管理機能

導入企業様では教育や移行作業が終わり、1年が経過。  
業務効率が上がり、過去最高益を出されたとのこと。  
一元管理システムの導入効果ははかり知れません。  
今後は海外対応の本格的な実装や  
生産リードタイムと作業員スキルを考慮したAI生産管理  
を視野に更なる改良を目指します。